

盛況のオープンキャンパス

すでにレポートで紹介したように、8月2日に学部のオープンキャンパスがあった。昨年から午前と午後の2回、大半の教員と多数の在学生が参加するようになった。それまでの代表者による「大学説明会」から（他学部では午後だけの説明会ではあるが）、参加ないし体験型の「オープンキャンパス」に衣替えした。参加者は昨年よりは減ったが、それでも暑いなか約600名の参加者があった。

上の写真は201教室での私の挨拶の時のものだ。部屋が暗いのは、203・204教室などで同時にスクリーンに映し出すためである。

まず大学紹介ビデオ、学部長挨拶、入試の説明、学科の紹介が行われ、それから学科ごとの説明や展示、イベントへとつづく。このオープンキャンパスにあわせて、昨年から学科ごとに綺麗な「冊子」が作られるようになった。学科間の「対抗」意識も芽生えつつあるようだ。



下の写真は301教室で行った公開ゼミナールの模様だ。テーマは昨年と同様に「地域から現代社会を考える」である。準備を重ねた堀江ゼミとは違って、ぶっつけ本番で緊張したが、なんとか途中の退席者もあまりなく終えることができた。今年は4年生3人と卒業生1人の少人数での実施となったが、多くの参加者にも発言してもらい、ゼミの雰囲気を感じてもらえたと思う。

嬉しかったのは卒業生が参加してくれたことだ。せっかくの休みなのに朝から参加して、ゼミに加わってくれた。それ以上に嬉しかったのは、堀江ゼミを中心にした4年生が、公開ゼミや在学生による進路相談などの案内ピラを朝早くから声を出して配っていたことだ。夏休みにもかかわらず、公開ゼミや宣伝の準備、そして本番での熱心なゼミや進路相談など、本当によくやってくれた。卒業生も参加した打ち上げ会で飲んだビールがじつに美味しかった。このような「伝統」が持続できたらと思う。



(8月9日 記)